

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099400048		
法人名	社会福祉法人 豊徳会		
事業所名	グループホームあかいけ		
所在地	福岡県田川郡福智町赤池409-13		
自己評価作成日	平成30年1月5日	評価結果確定日	平成30年1月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成30年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成筑豊鉄道赤池駅に程近い住宅地に、平成28年4月に開設したグループホームあかいけも間もなく2年を迎えています。「やさしい声かけ笑顔で傾聴、地域の中でいきいきと暮らす、思いやりの心で共に生きる」職員全員で作上げた理念を基に、利用者様が安心して過ごしていただけるグループホームを目指して日々支援をさせていただいております。利用者様がその方らしく、地域の一員として生き生きと生活できるよう、地域活動への参加やボランティアの方々の協力等による環境づくりをおこなっています。ご家族や知人の皆様が、いつでも来所いただき、利用者様と談話を楽しんだり、法人広報紙やホームページ等で行事や近況等を確認いただけるよう取り組んでいます。利用者様に、ここで生活して良かったと思っただけの安らぎのあるグループホームを目指して今後も職員一同精進していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **ユニット1/グループホームあかいけ**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員として、その方らしくいきいきと生活ができるよう職員一同ケアを行っている。理念は職員で話し合いのもと創り、朝礼時に唱和して業務に従事している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や盆踊りに参加して、地域の一員として暮らし続けられるよう交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方々や社会福祉協議会等の協力を得ながらカフェの開催を目指し、認知症の人への理解や相談等の対応ができるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様の状況や活動等の報告を行い、また意見をいただき、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、事業所の状況を伝えるとともにサービスや実情についても積極的に伝え、協力いただき連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを職員間で確認している。転倒等による事故の際には、その対策を職員や家族、行政等と協議しながら安全な生活を送ることができるよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、月1回職員会議にて確認をするとともに、職員には内外の研修に参加する機会を設けている。虐待防止チェックリストを活用し、虐待防止への意識向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護の制度については、パンフレットを配置したり、法人主催の研修会に参加するなどして勉強の機会を持ち、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等でご利用状況に変更等ある場合は、十分な説明を行い、ご家族等に不安のないよう理解いただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族等による意見や要望を伝えられるような雰囲気や環境作りに努めるとともに、出された意見等はユニット会議等で速やかに検討している。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や年2回の個人面談等で業務に関する意見の集約等を行い、サービス向上に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で人事考課制度を採用しており、職員の目標や実績に応じた評価をおこなうなど、職場環境の整備等に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては、性別や年齢等に関係なく対象を広く求めるとともに、希望の勤務形態等を協議しその能力が發揮できるように努めている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の会議において、人権研修や啓発活動に取り組んでいる。法人主催の人権研修にも職員が参加できるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルの見極め、個々に応じた法人内外の研修受講ができる機会を設けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の協議会に参加し、ネットワーク作りや相互訪問等の活動をおこない、交流を深めてサービスの向上に反映させている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居いただく前から、充分にアセスメントをおこない、ご本人の状況把握に努めている。不安や困りごと等要望に耳を傾けながら関係作りを行う。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して生活いただけるよう困りごとや不安等解消できるよう関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時に必要な支援の見極めを行い、他のサービス利用についても協議し、対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様にとってはご自分の家なので洗濯物たたみや掃除機がけ等、できることを行っただけにしている。また、その日に着る衣服は自分で選べる方はご自分で選んで着ていただく。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との絆を大切にするため、細やかな連携を図り、関係の強化を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の方々が訪ねてきていただけるよう広く開放している。また地域の交流活動に月1回出かけていく方もおり、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が会話や活動が楽しめるよう環境を整えたり、雰囲気作りに取り組んでいる。声かけや洗濯物たたみ等お互いが思いやりを持って支え合えるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了されたご利用者様に対しては、サービス機関への情報提供やご家族との関わりの中で、相談や支援等できるよう連携に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との対話やご家族との連携により、意向を汲み取ることができるよう努めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのこれまでの暮らし方などをご本人やご家族等に確認しながら希望に沿った生活ができるよう努めている。喫煙希望者に対しては、喫煙ルームの設置により希望に沿った環境を整えている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、利用者様の状況を把握するため、些細なことでも情報の共有を行い、サービス向上に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の立場に立った介護計画を作成できるよう、担当制をとっており、ご本人、ご家族等と話し合いを行い、その意向を汲み取り計画に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務記録を日々の記録として残すと共に、個別記録を記入し、日々の様子や状況を把握し職員間で情報共有し実践に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族の状況、ニーズに対応できるような様々なサービスの提供を検討できるよう取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが安全で豊かな暮らしを営むことができるよう、地域資源の情報収集を行っている。地域活動を通じて地域の一員となれるよう関係強化に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族等の希望を大切に、かかりつけ医への受診が行えるよう関係構築に努めている。かかりつけ医や協力医療機関等による往診も行っていただき、利用者様に安心して適切な医療を受けていただいている。		
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置して、利用者様の状況把握を行っている。必要に応じて適切な受診が受けられる様医療機関との連携にも努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常日頃から医療機関との連携を深め、入院退院時にも病院関係者との情報交換を密に行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針を事業所内や関係医療機関と協議、検討を行っていく体制作りを進めていくとともに、重度化に伴う関係機関との連携も進めていく。看取り研修にも随時職員が参加し、スキルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応が行えるよう、急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、職員への周知を図っている。AEDを設置し、使用法の内部研修も実施している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網の整備を行い、災害発生時の利用者様の安全確保に努めている。年2回避難訓練を計画。(今年度は10月に大規模災害時の避難訓練を実施)		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩として利用者様を敬い、言葉遣いや支援にも常に気配りを行っている。居室に入室の際や整容の際にも、声かけをするなど丁寧な対応をしている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の自己決定を尊重できるよう傾聴の姿勢を理念に掲げ、職員全員が共有し支援に繋げている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて支援させていただいている。入浴の順番等、利用者様で順番を決めて実施している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の中には自身でお化粧をしたり、馴染みの美容室に出掛けて散髪をする方もおられる。月1回出張カットのお願いをして美容師に来てもらい、カットやカラーも対応いただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士による季節感あふれる献立作成をおこなっている。また毎食ごとに献立表を掲示し、ご本人ごとの茶碗やお箸を準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の栄養摂取状況や水分量の記録、週1回の体重測定で身体状況の把握に努めている。身体状況や嚥下の状態に合わせて粥食や刻み食、ブレンダー食、とろみ食の提供で身体状況や嚥下の状態に合わせて支援をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態の確認や必要に応じた口腔ケアをしている。希望により訪問歯科診療の受け入れも検討している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄習慣や特性を確認し、トイレでの排泄ができるよう支援している。夜間、定期的にトイレ誘導の声かけなど排泄の自立に向けた支援を行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の記録や排泄の確認を行い、利用者様個々に応じた便秘の予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に応じた入浴が楽しめるよう、個々に応じた入浴支援をしている。基本的に毎日入浴を行っていただいております。利用者様の状況に応じて普通浴槽と機械浴槽を使って入浴いただいております。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの状況や生活習慣に応じて、休息したり安心して眠れるよう環境を整えている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬については、看護師が医療機関と連携し、確認後マニュアルを作成し職員に伝達する等情報共有し、安全に服薬支援をおこなっている。各ユニットに薬情ファイルがある。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゴミ箱作り、花壇の手入れ、掃除機がけ、洗濯物干し等、それぞれができる事をお願いし、気分転換に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、地域の散策をしたり、日光浴を楽しんだりしている。季節ごとの外出や月1回の買い物外出など、気分転換やメリハリのある生活が送れるよう支援している。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でお金をお持ちの方は、職員へ買い物の依頼をしたり、外出の際、ご自分で希望の物を購入したりする。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話の依頼がある方には、いつでも電話をかけることができることを伝え支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、食堂は吹き抜けで明るい造りになっている。空気清浄機、加湿器等の設置で湿度や環境への配慮も行い、BGMを流したり、季節の花をテーブルに置くなど、居心地よく過ごせるよう努めている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを配置し、仲の良い利用者同士で会話を楽しんだりテレビを見てくつろげる場所として活用している。また新聞をとっており、毎日新聞を広げて見ている利用者様も少なくない。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が利用者様にとって居心地良く過ごせる場となるよう環境を整えている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が安全に生活していただけるよう、物の配置に工夫した環境作りを行っている。		